

経緯、現状・課題

これまでの経緯

- ・1959年、故秩父宮殿下のスポーツに対する御功績を記念し、国立競技場内に設立
- ・新国立競技場の整備に向けて、2014年5月から一時休館し、都内に移転
- ・2015年8月、新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議において整備計画見直し
- ・スポーツ博物館の今後の在り方について検討(第4期中期目標:スポーツ博物館の今後の在り方について今年度(2018年度)中に結論を出すこと)

現状と課題

- ・故秩父宮殿下の御遺品やスポーツ史関連資料を多数所蔵(博物館約6万件、図書館約16万冊)
- ・日本のスポーツの歴史や文化に関する情報を発信、スポーツの振興に貢献(現在休館中)
- ・専門性のある職員の配置が十分でない、資料の収集・保管の明確な方針がない、公開できる目録が未整備等の課題あり

JSCに設置する意義

国の機関としての役割

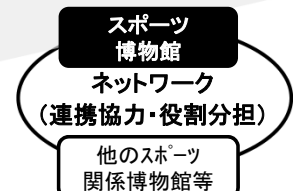
- ① スポーツの価値を公平・公正に伝えるのは公的機関が担うべき役割
- ② スポーツ振興を目的とする唯一の独法、一定の自主性・自律性、民間とも連携協力
- ③ 長年に渡るスポーツ博物館運営により、多くの資料や有形無形の資産を保有
- ④ 貴重なスポーツ関係資料を後世に継承する役割

コンセプト

スポーツの多様な価値(力や可能性)を伝えるネットワークの拠点

スポーツの多様な価値(人生や社会を変える“力”、未来を創る“可能性”)を博物館機能を通じて発信

(人々が知る・学ぶ・考える... ⇒ スポーツへの参画 ⇒ スポーツ基本計画の目標達成 ⇒ スポーツが社会課題の解決にも貢献)



事業内容

- 調査研究、教育普及、交流などの積極的な取組
- 人々の多様な関心、ニーズ等に対応
- 展示中心の「静的」な博物館から、積極的に情報を発信する「動的な」博物館へ
- 限られたリソースにおいて適切に工夫、段階的な事業の実施・拡充に留意

収集・保存	教育普及
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 具体的な方針策定(専門家と連携) ✓ スポーツ関係博物館等とのネットワーク確立 ✓ 必要な資料の精選、移管・譲渡等検討 ✓ 東京2020大会資料の一定程度の保存、障がい者・パラスポーツ資料の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ セミナー、シンポジウム、ワークショップ開催 ✓ 学校等へのアウトリーチ活動、SNS等による情報提供 ✓ ボランティアや学生インターンシップ等受入れ
調査研究	交流
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 所蔵資料の調査研究、価値づけ ✓ 学芸員と外部専門家との協力体制 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スポーツ関係博物館等と連携し、横断的なネットワークを構築(ナショナルセンターの役割) ✓ 情報交換、資料の相互貸借、人材交流 ✓ 海外のスポーツ博物館との連携等
展示	図書室
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 常設、企画、協賛展示、巡回展等を適切に使い分け ✓ 「おもしろい」「分かりやすい」展示(モノに触れる展示、VR等の体験型展示) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究用資料として、専門家等へのレファレンスサービスを実施 ✓ 一般利用者向けサービスについて、スポーツに関する様々な情報に触れる場として徐々に充実

設置エリア

人が集まりやすく、スポーツとかかわりの深い場所であることから、候補として「神宮外苑エリア」が有力

面積の考え方

具体的な設置場所や事業内容が未定であることから、今後、設置場所を固め、早急に検討

運営形態及び体制

- ・博物館機能を十分果たすため常勤の学芸員・司書を配置
- ・外部有識者会議を設けるなどにより活動を充実
- ・公共性等を踏まえ、大枠の部分はJSCが直接関与し、展示制作、広報、施設管理などは民間委託を検討

名称

約60年間の歴史との継続性を考慮し「秩父宮記念」の名称を引き続き維持することを基本とする

収入確保策

- ・学校等の教育機関、民間企業等との連携強化
- ・館内施設・スペースの有効活用、寄附金、会員制度充実

スポーツ博物館の再開館に向けた今後の計画: 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了後、できる限り早期の再開館を目標に、段階的に整備